

繁殖部会から

妊娠期間と分娩時の事故状況

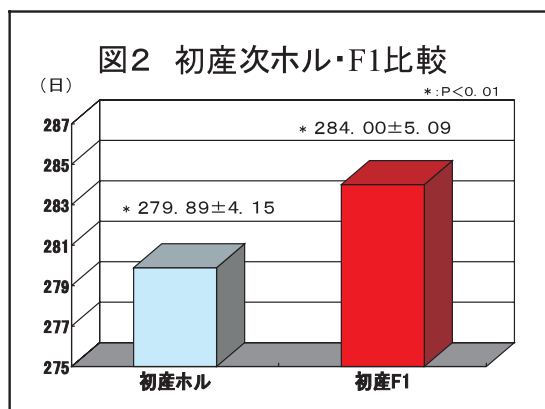
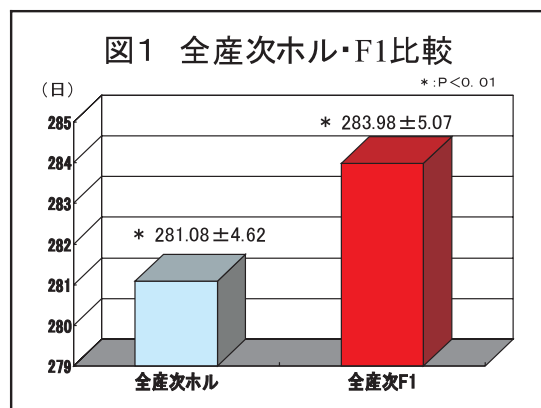
皆さん、乳牛の妊娠期間ってどの位なのかご存知でしょうか？

授精して妊娠、分娩するまでの期間、ホルスタイン登録協会によるとホルスタイン種では265日から294日までが正常範囲と言われ、文献などでは家畜の品種、交配する種雄牛の品種、産次により若干の違いがあると言われています。今回は妊娠期間と分娩時事故状況について報告させていただきます。

1. 産次ごとでは

全てのホルスタイン種雌牛にホルスタイン種精液を授精し生まれた子牛〈以降ホルとします〉の平均妊娠期間は281.1日でした。同様にホルスタイン種雌牛に黒毛和種精液を授精し生まれた子牛〈以降F1とします〉は284日とF1の方が約2.9日長くなっています。

(図1)



初産ではホル・279.9日に比べF1・284日の方が約4.1日間長くなっています。(図2)

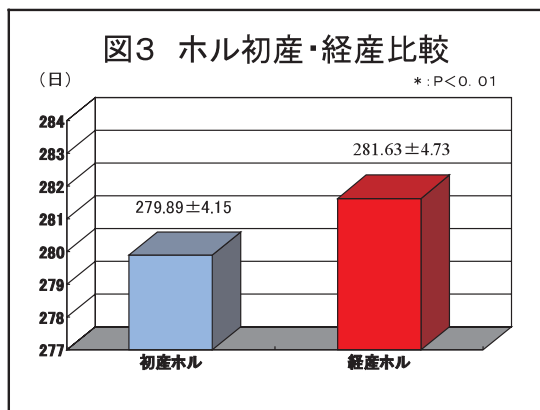
ホルスタイン種を交配した初産と経産の比較では、初産・(279.9日)より経産・(281.6日)の方が約1.7日長くなっています。(図3)

2. 性別ごとでは

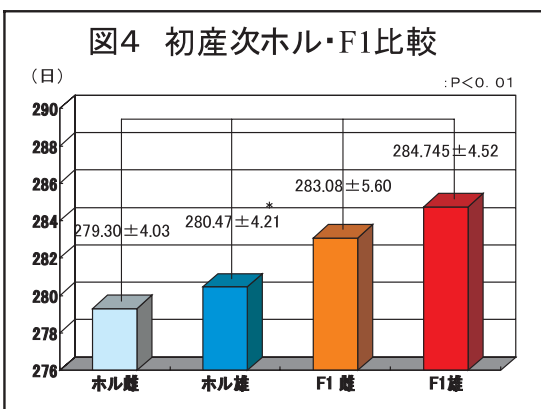
初産ホルの雌と雄では、雄・(280.5日)の方が雌・(279.3日)より約1.2日長くなっています。初産F1の雌と雄では、雌・(283.1日)より雄・(284.7日)の方が約1.6日長くなっています。初産ホル、F1の雌雄では、ホル雌、ホル雄、F1雌、F1雄の順に長くなっています。(図4)

3. 初産・2産の分娩月齢は

初産ではホル・25.8ヶ月、F1・25.5ヶ月と同様な月齢ですが、2産ではホル・(39.5ヶ月)、F1・(38.7ヶ月)と、ホルよりF1の方が約0.8ヶ月早く2産目の分娩をしています。



4. 初産分娩後の初回授精開始日数と初回受胎率



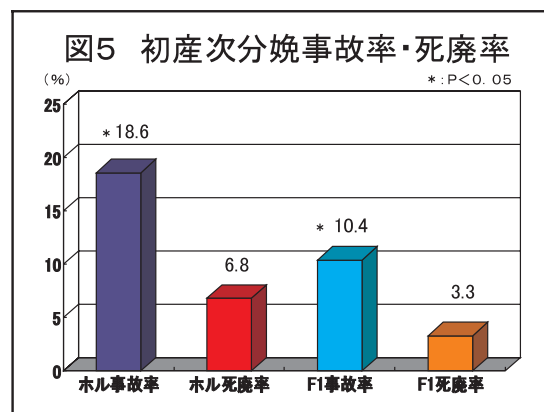
授精開始日数ではホル・(82.7日)、F1・(81.5日)とF1の方が若干早く、初回受胎率ではF1・(54.4%)がホル・(41.1%)よりも高くなっています。

5. 初産分娩時の事故

初産分娩時の事故発生率ではホル・(18.6%)、F1・(10.4%)とホルの方がF1より多く発生していて、分娩事故で廃用になった母牛の比較ではホル・(6.8%)、

F1・(3.3%)とこちらでもホルのほうがF1よりも多くなっています。

胎児・子牛共済でも胎児死、出生当日に死産事故となったものは乳用種群(6.6%)、F1群(5.3%)と、親牛の事故率と同様、ホルの方がF1より多い傾向にあります。(図5)



以上のことから、やはりF1の方が分娩が遅く、経産の方が遅い事がわかりました。順番では、ホル雌<ホル雄<F1雌<F1雄と分娩が遅くなります。

未経産牛への黒毛和種の交配(F1)は、難産などの分娩時事故の軽減、2産分娩月齢の短縮など経済的に有利と考えられました。しかし、乳牛改良の観点からは、牛群の中で最も遺伝改良の進んだ初産牛の娘は残らず遺伝的改良が遅れてしまうという

大きな問題が生じてしまいます。事故を防ぐためにもまず大切な事は、安心してホルスタイン種でも交配できるような体格の若牛を育成する適切な飼養管理を実施する事だと思います。

未経産牛への授精時には、その牛群での後継牛かどうかを考慮して適切な交配品種を選択することが重要なことで、更には交配品種毎の妊娠期間、特性を十分理解して安全に分娩させる事が、その後の乳牛改良、安定した酪農経営につながる第一歩だと考えます。

(厚岸支所家畜改良課 村井 浩之)